

絵を描こう!!!

—オートシェイプの楽しい使い方—

会誌編集部

I. はじめに

Microsoft Officeの普及により、PowerPointでスライドを作成したり、WordやExcelで資料を作成したりする際に“図をスキャナで取り込み、挿入する”という作業が増えてきたように思います。例えば、グラフや表、フローチャートやイラストなど。

その時、ふと「もうちょっとキレイに読み込めないかなあ」と思ったことはないですか？

大変フクザツなイラストなどはやっぱりプロにはかないませんが、簡単なものであれば、スキャナで読み込まずとも“オートシェイプ”という機能で作成できるんです！

今回はオートシェイプとそのちょっとした便利な使い方をお教えしたいと思います。

ぜひぜひ、イラストを描いて載せて、図書室のアピールツールとしてもご利用ください!!

II. オートシェイプって？

Microsoft OfficeのPowerPointやWord、Excelで使用できる図形描画機能です。



これらの図を基本に合わせたり重ねたり形を変えたりして、絵を描く（作る）ワケです。

ここでは、OSはWindows、ソフトウェアはMicrosoft Office 2003を使用して解説します。

III. 基本編

下記のツールバーを使用します。使用頻度の高い図形はあらかじめ表示されています。



1. 図形を描く

(1) 直線・矢印




クリック&ドラッグで直線・矢印を描きます。

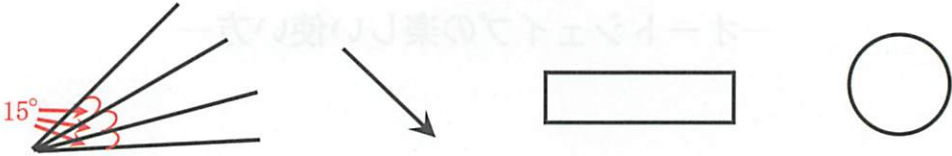



キーを押しながらクリック&ドラッグすると15° ずつ傾いた直線が描けます。

(2) 四角・楕円 


クリック&ドラッグで四角形・楕円形を描きます。

 キーを押しながらクリック&ドラッグすると、同じ比率で縮小・拡大できます。

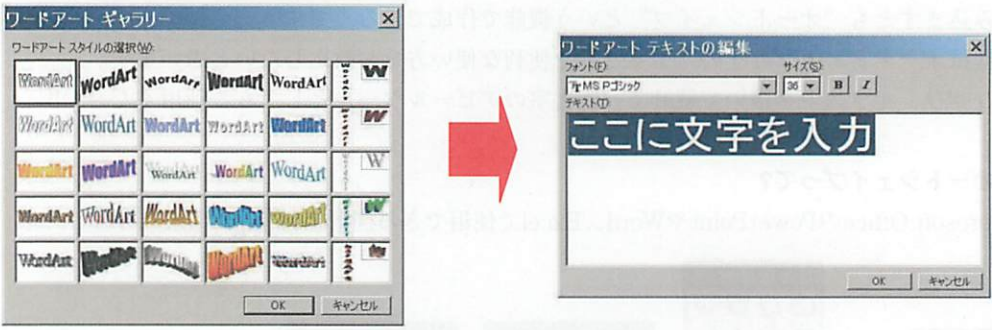


(3) テキストボックス (横・縦) 

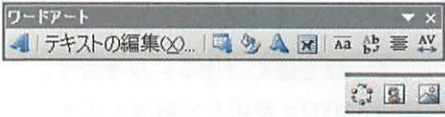
横書き・縦書きのテキストボックスを挿入します。

(4) ワードアート 

いろいろな色や形の文字を作成します。




スタイルを選び文字を入力します。文字は、下記のツールバーで変形させることができます。例えば、①字間を詰めたり、②伸び縮みさせたり、③波打たせてみたり、④色を変えてみたりといろいろなことができます。



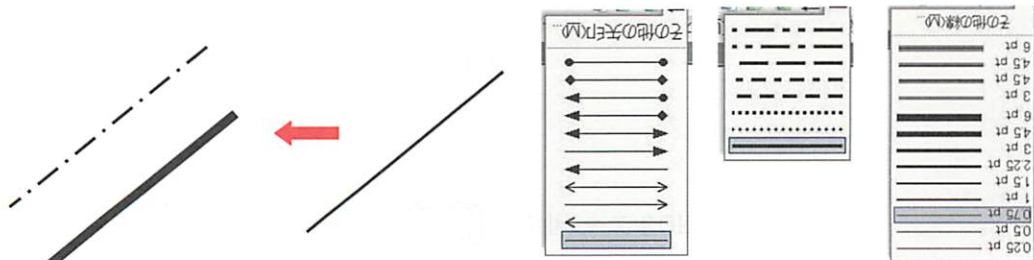
病院図書館



- ①  病院図書館
- ②  病院図書館
- ③  病院図書館
- ④  病院図書館

(5) 組織図・クリップアート・図 

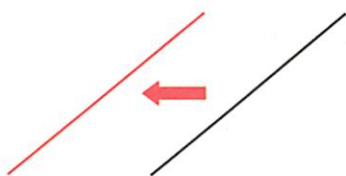
図表のテンプレートやクリップアート、パソコンに保存している画像を挿入します。



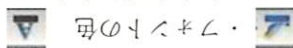
線のデザインを変更します。



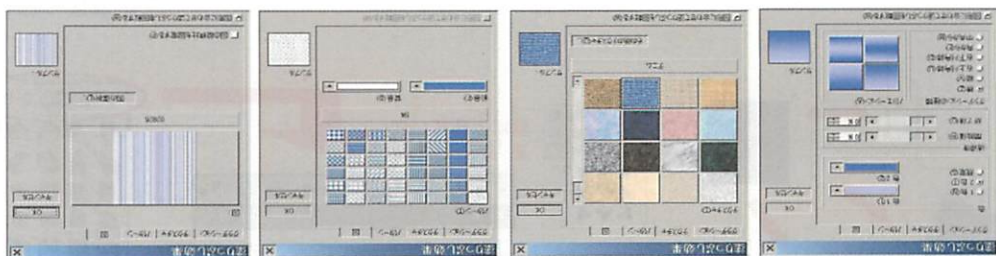
(8) 線の太さ・種類・矢印



線やフォントの色を変更します。

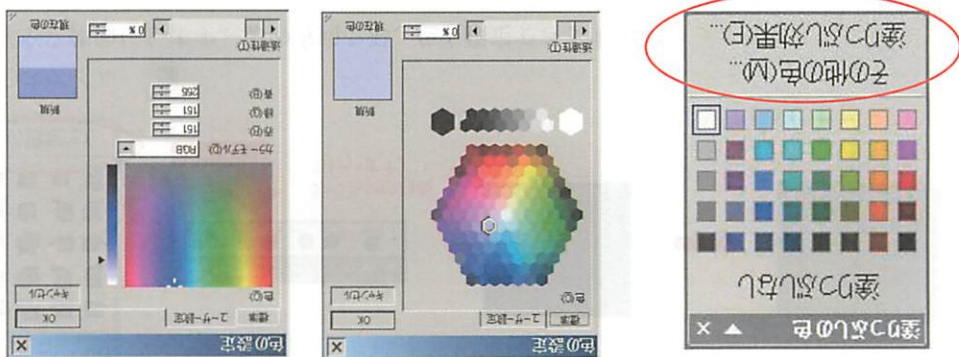


(7) 線の色



に取り込んでいる図や模様でもOKです。


また、「塗りつぶし効果」を選ぶと、いろいろな模様で塗りつぶすこともできます。パターン



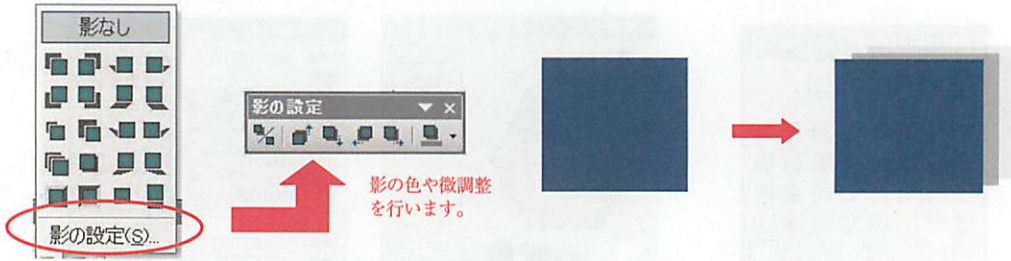
図形を好きな色で塗りつぶします。「その他の色」で微妙な色も作成できます。




(6) 塗りつぶしの色

(9) 影付きスタイル 

図形に影をつけます。方向や形、色も指定できます。



(10) 3-Dスタイル 

図形を立体的にします。影の方向や形、色も指定できます。



2. 図形を調整する

オートシェイプを使用して作成した図形を調整します。

(1) グループ化

いくつかの図形を組み合わせて作成した図を一つにする機能です。他に“解除”“再グループ化”の機能があります。


(2) 順序

図形を重ねて表示させる場合の順番（前後）を入れ替えたい時に使います。

(3) グリッド

図形の位置をそろえる目安になる罫線です（ちなみに実際には印刷されません）。

(4) 微調整

図形を少しずつ移動できます（ + 矢印キーでもOK）。

(5) 配置／整列

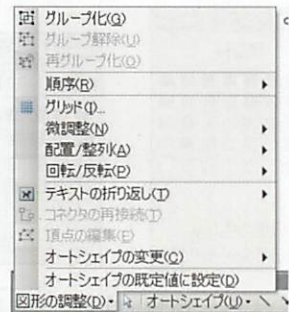
図形の位置をそろえます。

(6) 回転／反転

図形を回転させたり反転させたりします。

(7) テキストの折り返し

図形とテキストの位置関係を調整します。

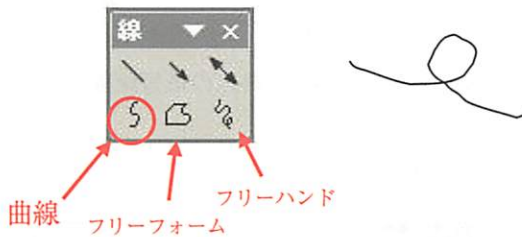


- (8) コネクタの再接続
コネクタを一番近い接続点でつなぎ直します。
- (9) 頂点の編集
線の頂点を編集します (図形を選択後、右クリックでもOK)。
- (10) オートシェイプの変更
選択した図形を他の図形に変更します。
- (11) オートシェイプの既定値に変更
既定値として設定した図形を常に挿入するようにします。

IV. 応用編

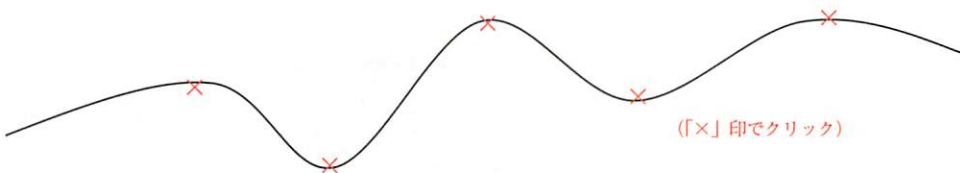
1. 線を描く際のちょっとしたワザ

- (1) フリーハンド
マウスをドラッグしながら自由に線を描けます。



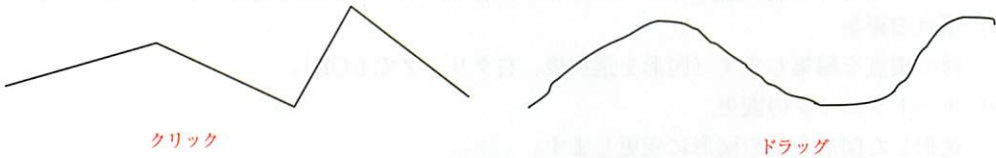
コツは画面を大きく表示することと、ポインタの動く速度を少し遅くすることです (“スタート→コントロールパネル→マウス→ポインタオプション” で設定を変更できます)。

- (2) 曲線
マウスをクリックするごとに頂点 (ポイント) が決まり、下記のような線が描けます。
ダブルクリックで描画を終了します。描画途中の修正は “バックスペースキー” を押すごとに、一つ前の作業まで戻ります。



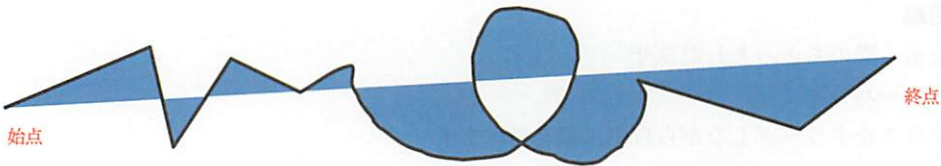
(3) フリーフォーム

クリックしていくと直線が描け、ドラッグするとフリーハンドで線が描けます。



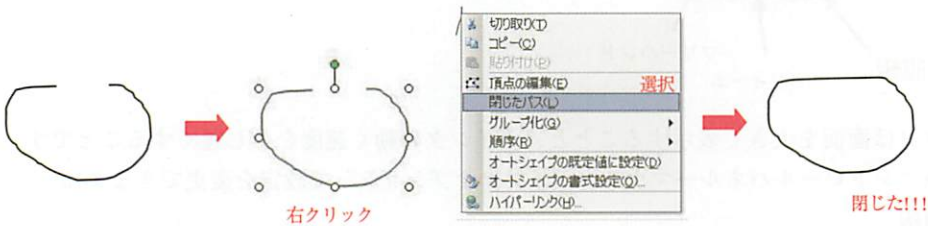
ちなみに、線を選択して“塗りつぶし”  で色をつけるとこんなカンジになります。

つまり線を開じていない場合、線の始点と終点を最短の直線で結んだ部分が塗りつぶされるのです。




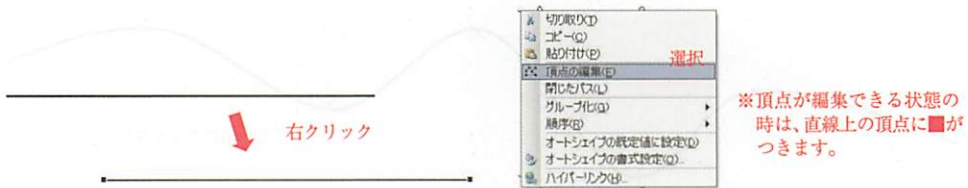
i) 描いている途中の線を閉じる


図形上で右クリック、“閉じたパス”を選択すると、始点と終点の最短距離で線がつながります。



ii) 直線を曲げる

直線上で右クリック、“頂点の編集”を選択し、直線上の曲げたい位置にマウスを持っていき、ポインタが  の形になったら、曲げたい方向へドラッグします。



また、頂点を移動させたいときは、ポインタが  になったら、変更したい位置までドラッグします。

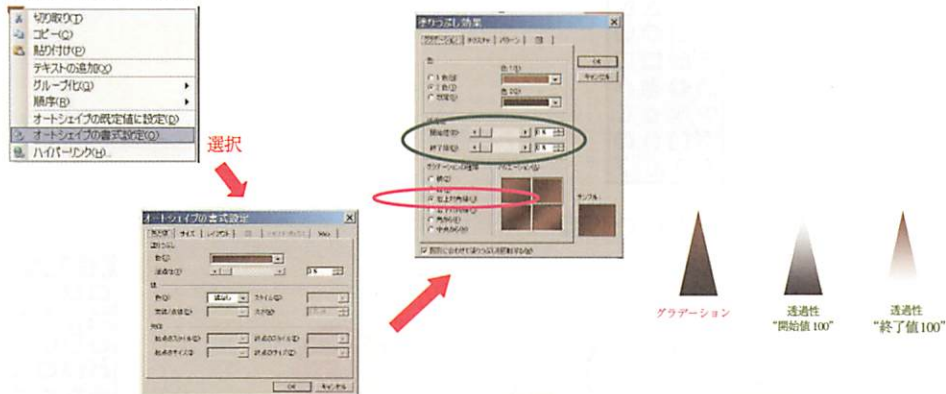


ちなみにこの方法は、オートシェイプ **オートシェイプ(U)** で描いたすべての図形で使用することができます。

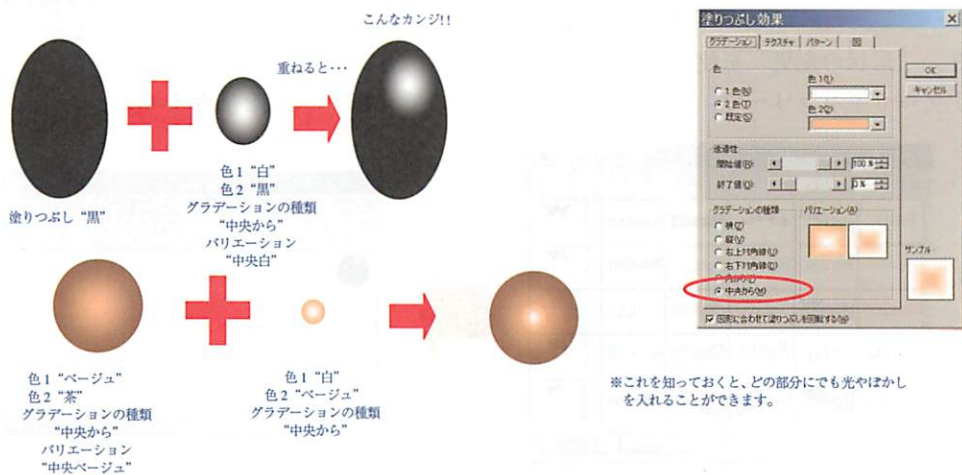
2. 色をつける際のちょっとしたワザ：オートシェイプの書式設定



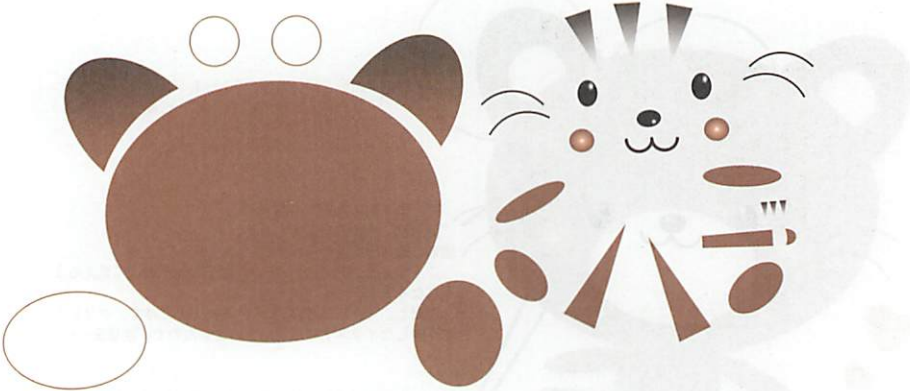
※模様の部分の解説



※目・鼻・頬の解説



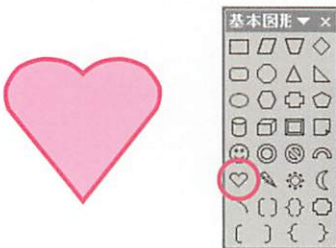
実はこの猫も、分解してみれば全てオートシェイプにある図形を変形させたり組み合わせたりしてできているのです。



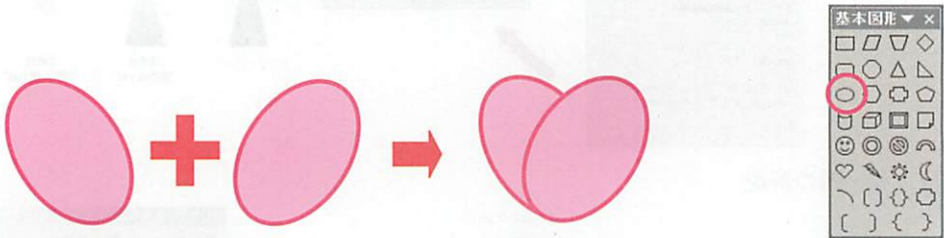
3. イラストを作る際のちょっとしたワザ：形状の変更

“ハート”を描いてみよう!!!

その1：基本図形の“ハート”をそのまま使用。

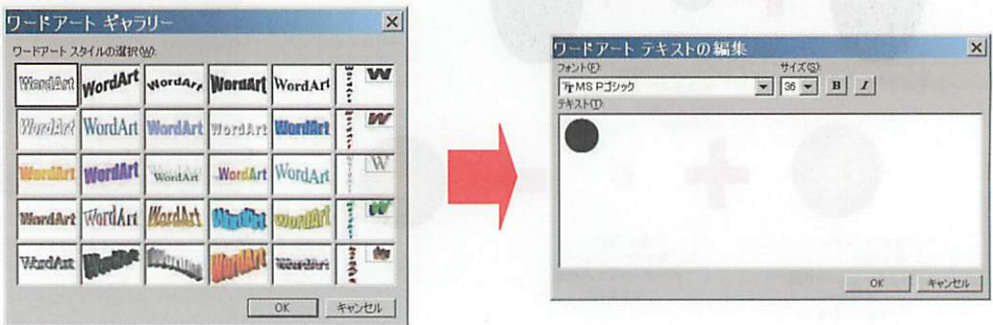


その2：基本図形の“楕円”を重ねて使用。



その3：“形状の変更”を使用。

ワードアートギャラリーで、どのスタイルでもよいので“●”（丸）を描きます。



できた図形を“形状→逆矢じり”へ変更。



同じ“ハート”型でも、1、2、3の描き方でこんなに違うのです！
形の違いがよくわかるように塗りつぶしてみました。



その1



その2



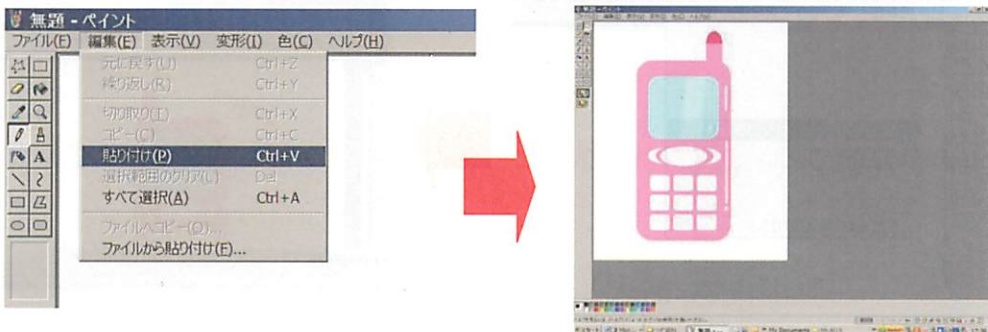
その3

このように、オートシェイプにある図形を改造して、イラストを作り上げることもできます。

V. 保存方法

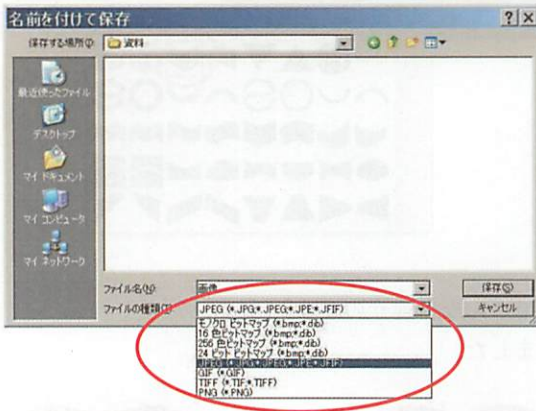
1. グループ化して保存

- (1) 作成した図を“グループ化”します。
- (2) 図をコピーします（“右クリック→コピー”）。
- (3) “スタート→すべてのプログラム→アクセサリ→ペイント”からMicrosoftペイントを起動させ、“編集→貼り付け”を選択します。



このように貼りつきます。

- (4) 保存先、ファイルの種類を指定し、ファイル名を入力して保存します。
保存する画像ファイルの種類は、“図書館員のツボ4”をご一読ください。




2. プリントスクリーンを使用して保存

- (1) 画面上で図を全体が見えるように表示させます。

※Wordのグリッド線やExcelの枠線は表示させないようにしておいてください。

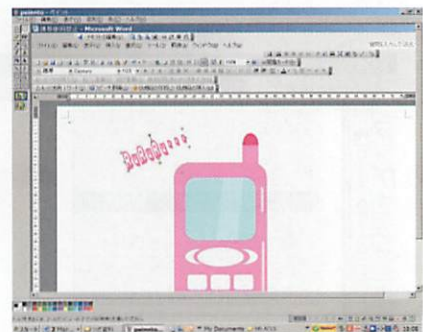
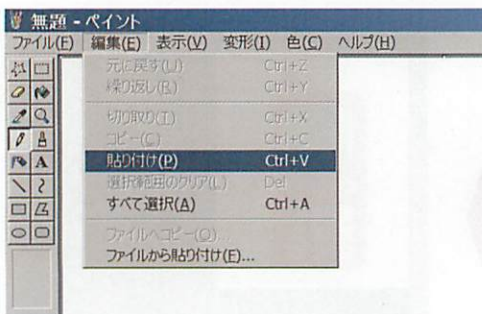
- Word：“表示→グリッド線”のチェックを外します。
- Excel：“ツール→オプション→表示”で“枠線”のチェックを外します。

- (2) “Print Screen” キー  を押します。

パソコンによって異なりますが“PrtSc”や“Print Screen”の表示があるキーです。

表示はされませんが、画面に表示されているすべてがそのままクリップボードにコピーされます。

- (3) “Microsoftペイント”を起動させて“編集→貼り付け”を選択します。すると、パソコン画面がそのまま画像として貼りつけられます。



このように貼りつきます。

- (4) あとは“1. グループ化して保存”と同じです。

保存した図をMicrosoft Picture Managerなどの画像処理ソフトで“トリミング”をして不要な部分を切り取り整えてください。

処理後、どちらの方法で保存した図もワードアートと同様に使用できます。

VI. おわりに

今回ご紹介させていただきました機能は、ほんの“さわり”です。インターネット上でも、ものすごい“ワザ”が紹介されているサイトがたくさんあります。オートシェイプ機能は、使いこなせるようになると本当に便利な機能だと思いますので、「なんだかムズカシイな～」「こんな機能使うかな～」とは思わずに、ぜひとも触って使ってみてください。

そして“こんなこともできるよ!!!”という発見がありましたら、ご紹介ください。

(文責：松尾 知香／石切生喜病院)

参考文献

- 1) オートシェイプでイラストを描こう. [引用 2009-01-13].
<http://word.komamemo.com/index.html>
- 2) Word (ワード) 基本講座：オートシェイプの使い方. [引用 2009-01-13].
<http://www.eurus.dti.ne.jp/~yoneyama/Word/w-sheip.htm>
- 3) Wordでお絵かき：あそびのレシピ：新おとな総研：YOMIURI ONLINE. [引用 2009-01-13]
<http://otona.yomiuri.co.jp/pleasure/drawing/>